

「HyogoPepper」は、公募により集まった高校生記者13名からなる兵庫県青少年記者クラブが、兵庫区のまちを中心に取材、作成した新聞です。

語り継ぐ20年前の記憶

阪神・淡路大震災から20年。長い年月が過ぎ、震災を知らない若い世代が増え、あの恐ろしい出来事は、日常から遠い存在になりつつある。聞いた話では阪神・淡路大震災を超える大地震が30年以内に起こることが、プレートの動きなどから予測されている。そこで今必要なのは震災を体験した世代から若い世代へ、当時の体験を伝えていくことである。そこで行われたのがこの「シニアと高校生、ともに創ろう減災グッズin かけはしカフェ」だ。

参加した高校生をA、B、C、Dの4つの班にわけ、5回のワークショップを行った。まず始めに、人と防災未来センター、KIT ITO見学や、シニアの方から震災の体験を聞き、震災時に不足したもの、あればよかった物とはなにかを知った。

それをもとに「普段使いできる減災グッズ」ということをコンセプトとしてそれぞれの班でアイデアを出し合い、減災グッズの方向性を定めた。

A班 止血や救助のためなど、さまざまな使い道ができるロープを搭載したグッズ

B班 震災による精神的ショックを和らげることができる癒し要素を含んだグッズ

C班 水に浮くことができるグッズ

D班 災害時に役に立つリュックサック
 そこからラフ案を作成し、形や色、使う素材などを決め、神戸芸術工科大学の方に作成していただいた(作成した減災グッズは下図)。そして、その減災グッズをシニアの方に身に着けていただき、その様子を撮影し、ポスターを作成した。それらのポスターをモダンシニアファッションショーにて展示するとともに、シニアモデルが着用してランウェイに出演した。

また、1月17日にはひょうご安全の日というイベントにブース展示し、多くの方に企画の趣旨や実際に作った減災グッズを広める活動を行った。

これからの活動は、もっと多くの方に向けて発信されていくべきだ。震災を経験された方はもちろん、私たち高校生のような新しい世代も震災に真摯に向き合うことが求められている。

記事・岡本航輔、佐野香之、ゴマル萌恵
 写真・モダンシニアファッションショー「シニアと高校生、ともに創ろう減災グッズ」事業実行委員

高校生とシニアが創った減災グッズ



A班

- ・おしゃれに防災 Air Pop【写真中央】津波時に身を守り、水も運べるトートバッグ。
- ・いいだろ 俺達のリュック【写真左上】肩部分のロープが救助時に使える。
- ・おかしポーター かしっち【写真左中】お子様用ポーチ付きサスペンダー。

B班

- ・Happy Flower ~Carry Pillow~【写真左下】持ち運び可能な減災まくら。
- ・Happy Flower ~りぼうしふる~【写真右上】タオルの部分にポケットがついており、裁縫道具や絆創膏を入れることができる。

C班

- ・防災バッグ「メロンパン」【写真右中】災害時に頭巾や浮き輪となる。

D班

- ・マルチスターバッグ【写真右下】ロープやホイッスル等がついている多機能なバッグ。

<主催>モダンシニアファッションショー「シニアと高校生、ともに創ろう減災グッズ」事業実行委員会
 <協力>ひょうご安全の日推進県民会議、兵庫県役所、NPO法人プラス・アーツ、神戸芸術工科大学